



# 鹽竈十番

発行所 〒985-8510 塩竈市一森山一番一  
 志波彦神社  
 鹽竈神社 社務所  
 電話 〇三二(三六七) 一六一(代)  
 FAX 〇三二(三六五) 五五三〇  
<http://www.shiogamajinja.jp/>

みなと祭 御座船「龍鳳丸」



新型コロナウイルス感染症の位置づけが五類に移  
 行し、長らく制限のあった生活から、もとの生活に  
 戻ろうとしている。現在の厚生労働省のホームペー  
 ジでは、マスクの着用は個人の判断に委ねる事を基  
 本とし、一定の場合は推奨としている。ここ数年の  
 間着用し続けてきて、外す事に抵抗を感じる方が多  
 いのではないだろうか。油断してはならないとい  
 う思い、マスクを外したもとの暮らしに戻りたい、と  
 という思いもあるだろう。

夏の風物詩とも言える第七十六回塩竈みなと祭が、  
 コロナ禍前と同様の形・規模で斎行されることになっ  
 た。

今回は、多くの市民が待ち望んでいた「恒例の」  
 祭りである。

ここ数年は、「当然」の事が「当然」ではなくなっ  
 た時間を皆が体験した。そして今、「当然・恒例の」  
 事が実施・斎行出来るという事が、如何に有難い事  
 であるか。これから、「恒例の」祭典が、これまで  
 以上に盛大に、賑々しく斎行されることを願って止  
 まない。

# 鹽竈神社例祭 七月十日

来る七月十日(月)、鹽竈神社例祭が斎行されます。

古くは陸奥国司が神事でない、江戸時代には仙台藩主伊達家が大神主として祭祀を司りました。

当日は午前十時より斎行され、祭典中に特殊神事「御出幣式」が執り行われます。

御出幣式は、別宮・左宮・右宮の各御本殿内に奉安されている御神幣を権宮司以下所役三名が奉戴し、楼門まで進み、まず南面して左右左の順に振り奉り、次に北面して同様の所作を行います。



御出幣式



流鏝馬神事

これは国家の安泰と国民の平和を祈るもので、かつては「御朝参神事」とも称し筆頭禰宜家が相伝する秘事でした。

また七月九日(日)には流鏝馬神事が斎行されます。

この神事は、鎌倉時代に留守職・伊沢家景が三頭の馬を献じて流鏝馬を行い、部下の士気を高めたのが始まりと伝えられます。

ほか例祭にあわせ、神賑行事として、市内小学校児童による書道展が給馬殿に催されます。

## 宮城県無形民俗文化財

# 藻塩焼神事

七月四日・五日・六日

鹽竈神社例祭に先立ち、市内本町に鎮座する末社・御釜神社では、御祭神・塩土老翁神ゆかりの特殊神事「藻塩焼神事」が斎行されます。

「藻刈神事」七月四日(火) 七ヶ浜花洲浜沖に神事船を出し、ホンダワラと呼ばれる海藻を採取する神事です。

の海水を汲み、古い神釜の水を海に返して入れ替える神事です。午前十時に御釜神社において奉告祭を斎行し、午後二時に出船し神事を斎行します。



藻刈神事



水替神事

「水替神事」七月五日(水) 松島湾釜ヶ淵より満潮時

「藻塩焼神事」七月六日(木)

藻刈神事で採取したホンダワラを用いて塩分濃度の高い塩水(鹹水)を作り、これを煮つめて塩を作ります。

古代の製塩方法の一端を



調製された塩

神事で調製された塩は御釜神社例祭、十日の鹽竈神社例祭で御神前に御供えされるほか、御釜神社例祭参列者にお頒けします。



藻塩焼神事

伝える貴重な神事として、昭和五十四年に宮城県無形民俗文化財に指定されました。

# 塩竈みなと祭齋行

七月十七日 海の日

七月十七日(月・海の日)「やしりと魚のまち」塩竈を挙げての祭典「みなと祭」が齋行されます。

志波彦神社・鹽竈神社御両社の大神輿が市内を巡幸ののち、御座船「龍鳳丸」「鳳凰丸」に奉安され、日本三景松島湾を舞台に大小百隻からなる供奉船団を従えて海上を渡御します。

前日に開催される花火大会や陸上パレードなどまちは華やかに賑います。

## 曲木神社例祭

八月一日

八月一日(火)、市内新浜町籬島に鎮座する末社・曲木神社の例祭が齋行されます。

籬島は古くより名高い歌枕の名所として多くの和歌に詠まれてきました。

また、国の名勝「おくのほそ道の風景地」の一つに指定されています。

前日には前夜祭が齋行されます。



御座船「鳳凰丸」

## 氏子崇敬会

### 春季大祭齋行

五月十四日、氏子崇敬会春季大祭が齋行され、会長以下会員約二〇〇名が参列しました。

祭典後、新任の大世話人、世話人へ委嘱状の交付、また永年継続表彰が行われました。

(敬称略)

委嘱状交付

大世話人

(西部)

石堂二

鈴木三佐保

利府野中 鈴木 俊次  
特別区 狩野 正明  
(南部) 佐浦町二 小高 正三

世話人 特別区 佐東 陽達  
(東部)

令和五年度継続表彰  
◇四十年表彰 (北部) 北浜二 引地 正人

◇三十年表彰 (北部) 北浜二 佐々木恒芳

◇二十年表彰 (西部)

栄町 東祐ベース工業  
栄町 東海林正一  
玉川二 大槻 辰美  
玉川二 菅野 新治  
梅の宮 山田 宏  
鈴木 隆子

◇十年表彰 (東部) 貞山通 高橋 利光  
貞山通 税理士法人

(北部) 貞山通 阿部会計事務所  
越の浦親交会 佐藤 重雄  
北浜三 阿部 八郎  
佐藤 秀

## 就任のご挨拶



志波彦神社 鹽竈神社

権宮司 大瀧 博司

盛夏の候皆様方におかれましては益々御清祥にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。

さて私こと、この度六月一日付をもちまして志波彦神社鹽竈神社権宮司を拝命いたしました。格式と伝統ある御両社の権

宮司就任は身に余る光栄でありますと共に、その職責の重大さを実感しております。

昭和六十年に当神社に奉職以来、今日まで大過なく奉仕でき得ましたのも、これ偏に大神様のご加護のもとと歴代宮司はじめ責任役員、

総代、多くの氏子崇敬者、先輩諸賢のご厚情のお陰です。素より浅学非才の身ではありますが、更に精進を重ね大神様に誠心誠意ご奉仕申し上げますと共に、宮司を補佐して、一意専心職員皆と一丸となつて御神威の発揚に尽くす所存でございます。

何卒、今後とも倍旧の御指導御厚誼のほどお願い申し上げます。就任のご挨拶と致します。

ガラス作品

「錦の渦潮」

奉納奉告祭

六月九日、フランスの画家マークエステル・スキヤルシャフィキ氏のガラス作品「錦の渦潮」の奉納奉告祭が斎行されました。

氏は平成八年、伊勢神宮に作品を奉納されたことをきっかけに、全国各地の神社に奉納を志します。

平成十八年には、神道文化会より文化奨励賞を受賞されました。

現在、全国一九五社の神社に作品が奉納されている



錦の渦潮

ほか、神社を会場に個展を開催するなど神道に深い理解を示す作品制作をされました。

令和元年には皇居前広場で行われた「天皇陛下御即位をお祝いする国民祭典」では十五点の作品が投影されました。

奉告祭には同氏の実弟ステファン・スキヤルシャフィキ氏の代理人、ギャラリーマークエステル、株式会社H&T代表取締役濱崎佐知子氏が参列しました。祭典後、宮司より感謝状が贈呈されました。



御神田御田植祭斎行

五月十三日、御神田において御田植祭が斎行されました。

当日は晴天のもと、氏子青年会ほか各団体、一般奉仕者約一五〇名が参列し、泥に足をとられながら御田植を行いました。

これから四ヶ月間、農耕と殖産の守護神・志波彦大神の御加護のもと、秋の収穫を待つこととなります。

敬神婦人講だより

境内清掃奉仕

五月二十五日、総勢三十三名の講員により、鹽竈神社左右宮御垣内の清掃奉仕が行われました。講員等は和やかに取組んでいました。

大年寺墓参

六月二十日、講員二十二人の参加のもと、大年寺山伊達家墓所への墓参が行われました。

当日は、塩竈に縁の深い四代藩主伊達綱村公の命日



にあたり、綱村公並びに歴代藩主へ追悼の献花を行いました。

講社だより

各地の講社祭が斎行されました。永年勤続講員の表彰、新世話人へ委嘱状が交付されましたので、御芳名を紹介いたします。(敬称略)

釜石講社祭

四月二十三日、創立七十年の佳節を迎え津田講長以下十五名が参列しました。祭典後、宮司より感謝状が贈呈されました。

◆六十年表彰 津田 保之

◆四十年表彰 岩館 敏明

◆三十年表彰 志田 貞夫

◆二十年表彰 合澤 裕行

◆十年表彰 菊池 輝行

◆十年表彰 東 一見

仙台千人講祈願祭

六月八日、世話人が参列し祈願祭が斎行されました。祭典後、新講長・世話人へ委嘱状が宮司より交付されました。

委嘱状

講長

世話人

菊地 宏幸

庄司千恵子

養成所通信

進級式

四月七日、神職養成所進級式が執り行われました。本年度は二年生一名となります。

○進級生

(普通課程Ⅱ類二年) 近野 秀和(福島県)



結婚おめでとう  
おめでとうございます

三月

- 徳島県 高橋 政雄
- 仙台市 片倉 明子
- 福島県 鈴木 元気
- 遠田郡 佐々木 麻衣
- 東京都 佐々木 晶野
- 宮城郡 佐竹 祥香

四月

- 岩手県 菊池 将史
- 多賀城市 高橋 菜緒
- 登米市 鈴木 博文
- 登米市 山内 歩美
- 東京都 林 叔弘
- 仙台市 渡部 遥
- 多賀城市 丸山 雄志
- 栃木県 石塚 稚子
- 巨理郡 河本 達則
- 宮城郡 伊藤 愛
- イギリス ジムティモシー
- 仙台市 マンシユイ
- 山形県 藤沢 爽風
- 仙台市 今野 亮
- 山形県 堺 侑子
- 岩手県 今野 亮
- 岩手県 石杜 和希
- 福島県 木戸 葉澄
- 岩手県 杉山 高輝
- 越田 優
- 大崎市 篠塚 恭央
- 石巻市 木村 真奈美
- 加美郡 佐々木 政胤
- 大崎市 佐藤 萌子

- 宮城郡 宮城郡 長尾 美波
- 仙台市 熱海 綾香
- 宮城郡 竹澤 克浩
- 仙台市 石井 かほり
- 宮城郡 坂上 佑弥
- 宮城郡 高橋 杏子
- 新潟県 片岡 瑛太郎
- 東松島市 小野 久美子
- 仙台市 高橋 巧
- 富谷市 渡辺 莉帆
- 東京都 村田 佑斗
- 埼玉県 市原 夏織
- 千葉県 濱中 卓也
- 三浦 公馨
- 加美郡 相澤 崇弘
- 岩手県 松崎 晴希
- 大崎市 今野 太裕
- 岩手県 山崎 華
- 多賀城市 三浦 征裕
- 仙台市 平河 内さち
- 兵庫県 榎戸 翔一
- 多賀城市 伊藤 英理
- 大崎市 中條 圭
- 加美郡 加藤 百恵
- 仙台市 佐藤 隆弘
- 岩沼市 佐藤 瑞佳

五月

- 仙台市 松浦 司
- 茨城県 岡本 美咲
- 多賀城市 佐藤 翔平
- 神奈川県 辻 志保利
- 仙台市 松本 和之
- 山形県 熊谷 路子
- カナダ アレキサンダーライト
- 福島県 吉田 智美
- 塩竈市 櫻井 裕一
- 仙台市 秋葉 友美
- カナダ サットンギャビン
- アラストームニア
- 富谷市 森 華子
- 青森県 外崎 貴之
- 仙台市 照井 萌
- 宮城郡 大浦 直人
- 岩手県 小野寺 晴香
- 仙台市 石川 大介
- 仙台市 島守 千尋
- シヤブローウゴ
- テイボジル
- 塩竈市 渡邊 悠香

- 仙台市 相澤 瞭
- 多賀城市 丹野 春花
- 福岡県 藤井 邦昌
- 登米市 武田 葵
- 埼玉県 江間 紀仁
- 茨城県 大久保 はるか
- 多賀城市 佐藤 雅和
- 大崎市 千葉 香織
- 山形県 大滝 健司
- 大崎市 衣川 美奈
- 大崎市 加藤 侑多
- 柴田郡 山下 紗英
- 白石市 日下 卓也
- 大崎市 齋藤 ちはる
- 山形県 長谷川 哲朗
- 山形県 阿部 麻生
- 仙台市 布川 昭文
- 多賀城市 阿部 祐子
- 仙台市 及川 智晴
- 山形県 莊司 奈月
- 仙台市 高橋 潮
- 埼玉県 榎 裕貴子 (敬称略)

国家安泰  
五穀豊穰  
家内安全  
祭事暦(七月まで)

毎月

朔日 祭

一日 曲木神社月次祭

六日 御釜神社月次祭

十日 鹽竈神社月次祭

二十九日 志波彦神社月次祭

七月

四日 藻刈神事

五日 水替神事

六日 藻塩焼神事

七日 御釜神社例祭

九日 牛石藤鞭社例祭

十日 流鏑馬神事

十七日 鹽竈神社例祭

みなと祭

八月

一日 曲木神社例祭

九月

二十九日 志波彦神社遷座記念祭

並びに氏子崇敬会秋季大祭

安産祈願  
海上安全  
大漁満足

日本吟道奉賛会  
吟詠舞奉納奉告祭

六月四日、第六十一回日本吟道奉賛会吟詠舞奉納奉告祭が斎行され、伊藤清洲会長をはじめ県内会員八十五名が参列しました。



大講堂での吟詠

文芸欄

脈はいも千潟も沈め浜暮るる  
ふるさとに続く青空辛夷咲く  
海の荒れ海の風知る麦の秋  
雨あがり雲のくつろぐ五月かな  
春風や鼻緒の赤き布ぞうり  
信念の拳つき上ぐメーデー歌  
ほかほかの筍飯や夫の声  
若葉風応援団の大大鼓  
舞殿に釣り竿垂らす花明り  
啄木になつて手を見る夕端居

大野 みよ子  
大友 セツノ  
上田 由美子  
今田 須美子  
鈴木 ゆう子  
菅原 和子  
齋藤 豊子  
佐藤 悦子  
今野 紀美子  
及川 源作

鹽竈神社唐門前  
手水舎自動水栓化

この度、鹽竈神社唐門前の手水舎の自動水栓化工事を行いました。



参拝記録

三月

十二日 奈良県・葉師寺 大谷徹契執事長

他三十八名

二十五日 岩手県・一関市六社合同研修会

四十五名

二十六日 エッセンシャルマネジメントスクール

本庄陽介氏他九名

四月

二十六日 佐賀県・祐徳稲荷神社 職員研修旅行

第一班 二十三名

五月

十七日 仙台市・宮城縣護國神社 田中直彦宮司

十八名

二十一日 愛知県・新知名かよし会 職員研修旅行

第二班 二十三名

二十二日 佐賀県・祐徳稲荷神社 狩野貴美雄宮司 他一名

二十四日 北海道・美瑛神社

銅板奉納者芳名

多くの方々より銅板の奉納をいただきました。

三月

福島県 馬目レイ子 他二〇名

四月

東京都 藤田 恭子 他一四五名

五月

香川県 山地 英治 他一六四名 (敬称略)

人事異動

昇進(六月一日付) 権宮司 大瀧 博司

昇進(六月十五日付) 祢宜 永野 雄大

新任(五月一日付) 巫女 櫻下 乃愛

退職(三月三十一日付) 権宮司 野口 次郎

赤々

久しぶりに境内に鈴の音が鳴り、日常が戻りつつあるのを感じます。(慶)